

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境			0.40					2.8
1 音環境		2.6	0.15	2.5	1.00			2.5
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	2.8	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	Lr-50である。	3.0	-	4.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		2.1	0.35	1.5	1.00			1.9
2.1 室温制御		3.2	0.50	2.1	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		1.0	0.25	1.0	0.43			
4 ゾーン別制御性	マルチユニット型ヒートポンプ方式の空調を採用し、居室(各12㎡ほど)ごとの空調ゾーニングを行っている。	5.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30			
3 光・視環境		3.6	0.25	3.6	1.00			3.6
3.1 昼光利用		5.0	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率	共用部分:診療4.00%・待合2.76% 宿泊部分:3.44%である。	5.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備	共用部分:光庭を二ヶ所に設けている。	5.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.30			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御	宿泊部分:カーテンと庇によりグレアの制御をしている。	3.0	1.00	4.0	1.00			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境		3.6	0.25	3.3	1.00			3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		2.0	0.30	2.3	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御	全館禁煙である。	5.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.0
1 機能性		3.1	0.40	4.2	1.00			3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	宿泊部分:各居室12㎡程である。	3.0	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40			
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	内壁、内床:防汚性が高く、水洗浄可能であり、維持管理の大きく異なる床材を接近させていない。 風除室:1次扉と2次扉の間が4.3mである。 外部露出金属部分はジंकロメートメッキ処理である。	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.9	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクトをステンレスダクトにして長寿化を図っている。	4.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:VP(B)、給湯管:HT(B)、排水:VP(B)で 主要な用途上位3種の2種類以上にBを使用し、Eは不使用である。	5.0	0.15	-	-			

	6	主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23	-	-	
2.4	信頼性			3.2	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	非常用発電設備を設置し、電源設備の地下空間への設置を避け、地下への浸水防止措置をとっている。	4.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3		対応性・更新性		2.6	0.29	2.4	1.00	2.5
3.1	空間のゆとり			1.8	0.31	1.8	0.50	
	1	階高のゆとり		1.0	0.60	1.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2	荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3	設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
	6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3		室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.8
1		生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2		まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3		地域性・アメニティへの配慮		3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	屋内、屋外に地域交流を目的とした場所を設けている。光庭があり、開放的な空間である。防犯性に配慮し、ネットフェンスを設置している。	4.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR		建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.5
LR1		エネルギー		-	0.40	-	-	4.0
1		建物の熱負荷抑制	PAL値 = 17.2%である。	4.1	0.30	-	-	4.1
2		自然エネルギー利用		3.5	0.20	-	-	3.5
	2.1	自然エネルギーの直接利用	光庭があり、太陽光を利用した自然採光システムが計画されている。	4.0	0.50	-	-	
	2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3		設備システムの高効率化	ERR = 43.7%	5.0	0.30	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		ERR=43.7%	5.0				
	集合住宅の評価			-				
4		効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2		資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.0
1		水資源保護		3.4	0.15	-	-	3.4
	1.1	節水	節水コマなどに加えて、自動水栓を設置している。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2		非再生性資源の使用量削減		2.9	0.63	-	-	2.9
	2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロア、GL工法を採用している。	5.0	0.24	-	-	
3		汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.22	-	-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3		敷地外環境		-	0.30	-	-	3.4
1		地球温暖化への配慮	LCCO2排出率 = 66%	4.3	0.33	-	-	4.3
2		地域環境への配慮		2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3		周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2	風害・砂塵・日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	